

# たんぽぽ通信

平成26年7月発行 第27号

社会福祉法人みその福社会・ケアタウン成増



## 平成25年度を振り返り

社会福祉法人みその福社会 理事長 坂本 寛

平成25年度は特に職員教育に力を入れた1年でした。「看取りケア」から腰痛予防のための福祉用具の活用方法など多様な研修を外部講師により行い、職員のスキルや職場環境の向上に努めました。また板橋区の環境経営支援事業の1つである「省エネコンサルタント派遣事業」により当施設における省エネ診断と職員に対する省エネ講習会を開催していただきました。結果として職員の省エネ意識が向上し、平成25年度中に照明をLEDに仕様変更、平成27年度から2年間で老朽化した空調設備をより効率の良いものに入れ替えをする事となりました。

地域交流としては、今年度より地域の小学生の絵画等の作品を当施設のご利用者の作品と共に施設内に展示し、期間中に多くの小学生の保護者を始めとする地域の方々に作品を見学していただきました。また当施設にて長年にわたりボランティア活動していただいているガールスカウト東京都第71団の皆様が「東京都社会福祉協議会長感謝」及び、なります児童館の中学生傾聴ボランティアの皆様が「平成25年度板橋区青少年表彰」を受賞されました。今年度も様々なボランティアに当施設にお越しいただき活動していただきました。誠に有難く、心より感謝申し上げます。平成26年度よりボランティアを始めとする地域の方々が施設内で自由に時間を過ごして頂くために「地域交流スペース」を作りました。皆様にお気軽に利用していただければ幸いです。

ご関係の皆様には、これからも当法人にご支援・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

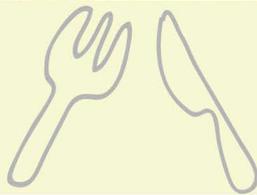
# \*\*\*\*\* 特別養護老人ホーム・ショートステイ

## 春のバスハイク

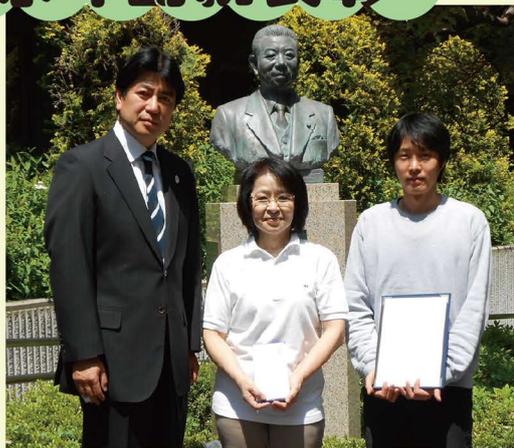
### ～東京湾ランチクルージング～



5月7日(水)に春のバスハイクに出掛けてきました。今回は初のランチクルージングを企画し、東京湾シンフォニー号にてクルージングと豪華ランチバイキングを楽しんで参りました。当日はお天気にも恵まれ、美味しい食事と船上から見る東京の景色、心地よい海風と全てが新鮮でした。普段の生活では味わう事が出来ない楽しいひと時を過ごしてきました。  
(参加者:利用者6名、ご家族2名、職員5名)



## 永年勤続表彰



看護主任  
南中道 智恵子(中央)

ヘルパーステーション  
加藤 純男(右)



## 新入職員(1月～6月)



新谷 紀子 看護スタッフ



河合 恵 2F介護スタッフ



\*\*\*\*\*

# デイサービスセンター

## いちご狩り

5/14(水)、和光市のいちご農園にイチゴ狩りに行ってきました。

利用者様16名様、職員7名、総勢23名。初夏の陽気の中、皆さん帽子を被ったり、よそ行きの格好をしたり、フロアの雰囲気も普段とちょっと違う印象でした。

たくさん撮れたイチゴを、ず〜と食べている方、職員に食べさせてくれる方など、皆さん思い思いに楽しまれていました。



## 介助犬

5/26(月)、日本介助犬福祉協会の皆様による、『介助犬とのふれあいイベント』を開催しました。ドアの開閉、ペットボトルのフタを開ける、物を手元に持ってくるなど、パートナーに合わせて習得した動作を披露してくれました。また後半のふれあいタイムでは、利用者の間に入り、直接触れ合うことができました。介助犬の一生懸命な姿とかわいらしい仕草に、皆思わず顔がほころんでいました。



## コーヒー・ティーサーバー／地域交流スペースなど

当デイサービスセンターでは、皆様により快適に過ごしていただけるよう、色々な取り組みをしております。「食べる」ことをより楽しんでいただけるように食事のトレーを変更したり、おやつをその場で選んでいただいたり、コーヒー・ティーサーバーを設置し、いつでもお茶を楽しんでいただいたりなどなど。また、ご利用者のみならず、地域の方々にもケアタウン成増にふらっと立ち寄っていただけるような「地域交流スペース」も設置しました。

これからも、皆様に愛されるデイサービスセンターを目指し、職員一同努めてまいります。



# ヘルパーステーション

## \*この時期に注意したい食中毒

在宅で出来る食中毒予防について、食中毒菌を「付けない・増やさない・やっつける」の3原則を基本に、いくつか紹介します。



- ①作業前後の手洗いを忘れずにしましょう。
- ②食品を購入したら、肉・魚は汁がもれないように包んで保存する。
- ③調理に使用する包丁などの器具、タオルやふきんは洗って消毒する。
- ④加熱は十分に。(目安は中心部の温度が75℃で1分以上)
- ⑤残った食品は、早く冷えるように小分けにして冷蔵庫へ。

ジメジメとした、梅雨の時期こそ体調管理を心掛けましょう。

## 居宅支援事業所・地域包括支援センター

熱中症予防のために

毎年、多くの熱中症患者のニュースを耳にします。

「熱中症」は高温多湿の環境に長時間いる事で、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働くなり、体内に熱がこもった状態を指します。

【症状】

- ・めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋肉のこむら返り、気分が悪い
- ・頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感
- ・返事がおかしい、意識消失、けいれん、からだが熱い



【予防】

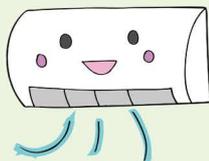
- ・暑さを避ける

屋内では…

扇風機やエアコンで温度を調節

遮光カーテン、すだれ、打ち水を利用

室温をこまめに確認



【外出時には…】

・日傘や帽子の着用

・日陰に利用、こまめな休憩

・日差しの強い日は日中の外

・出を控える



【からだの蓄熱を避けるために…】

通気性の良い、吸湿性、速乾性のある衣服を着用する

保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、からだを冷やす

【こまめに水分を補給する】

・室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じなくてもこまめに水分・塩分、経口補水液

・※などを補給する

・※水に食塩とブドウ糖を溶かしたもの

暑さの感じ方は人によって異なります。高齢者やお子様は特に注意が必要です。自力で水が飲めない、意識がない場合はすぐに救急車を呼びましょう！

詳しくは厚生労働省ホームページ「熱中症関連情報」をご覧ください。

## その他

ケアタウン成増に対するご意見、ご要望、苦情などありましたらお気軽に声をかけてください。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

次号は10月上旬発行予定です。お楽しみにして下さい。

<http://misono-fukushikai.or.jp/>

